

带状疱疹ワクチン、2つの違い

带状疱疹を防ぐワクチンが、2025年4月から定期接種になりました。生ワクチン（1回）と組換えワクチン（2回）のどちらかを選びます。効果と副反応に違いがあります。

带状疱疹とは

子どものころにかかった水ぼうそうのウイルスが体の中に残り、年をとって再び活動して、体の片側に帯のように痛い水ぶくれが出る病気です。70歳代で最も多く、皮膚が治ったあとも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」が生活のさまたげになることがあります。

誰が受けられるか

- ・ 65歳の方
- ・ 2025～2029年度は、その年度に 70・75・80・85・90・95・100歳になる方も
- ・ 60～64歳で HIV による免疫の障害がある方
- ・ 自治体の案内で、費用の補助があります（金額は自治体で異なります）

2つのワクチンの違い

どちらも带状疱疹と、そのあとの神経痛を防ぐ効果があります。

	生ワクチン	組換えワクチン
回数と方法	1回、皮下に注射	2回、筋肉に注射（2か月以上あける）
带状疱疹を防ぐ効果	1年後 約6割／5年後 約4割	1年後 9割以上／5年後 約9割／10年後 約7割
受けられない方	病気や薬で免疫が下がっている方	（免疫が下がっていても受けられます）
接種のあと	注射したところの赤み・かゆみ	注射したところの痛み、筋肉痛・だるさ・発熱（数日でおさまります）

選ぶときの目安

効果の高さと長さでは組換えワクチンですが、2回受ける必要があり、副反応も出やすいです。免疫を抑える薬を使っている方は生ワクチンを受けられません。自治体や医療機関によって扱うワクチンが異なることがあります。

こんなときは相談してください

- ・ 熱がある日は受けられません。治ってから受けてください
- ・ 持病がある方、免疫を抑える薬・血をさらさらにする薬を使っている方は、どちらのワクチンにするか担当医とご相談ください